

「日本における医史料の蒐集と

保存について——その現状と提言——」

司会 寺 畑 喜 朔

医史料を大別してみると、書籍類（刊本、写本）、文書類（書簡、端書、筆跡など）、器具機械類、薬剤と関連史料、画像（写真、書画、図録、医事雑誌にみる広告、パンフレット、切手、絵葉書等々）、図書目録、索引集など実に多種多様で、棄即してよい物件は全くない。演者はこれらの物件の中から棄却の運命を負う物件の二、三をあげ、その評価と保存管理について述べる。

また、医史料の所在箇所を鮮明にするとともに、新史料の発見、学会会員の所蔵文庫等の概要紹介、史料保存管理法等の公開の場合（日本医史学雑誌などを活用）を早急に設定することを提言する。

古医書類の保存管理は、機関と個人に分けられるが、既に松木明知教授は医学部図書館保存の文庫等の概況調査（科学医学資料研究二七四号）を終えており、演者はその一部について、現状と今後の問題点を列挙して、言及する予定である。